1－3　外国産食糧用小麦の需要量（政府からの販売数量）

平成22年度の外国産食糧用小麦の需要量は、総需要量569万トンから国内産食糧用小麦流通量73万トンを差し引いて496万トンと見通します（表３）。

1－4　外国産食糧用小麦の輸入量

平成22年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量と同数の496万トンと見通します（表３）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

表３　平成22年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量	A	569
国内産食糧用小麦の流通量	B	73
外国産食糧用小麦の需要量（政府からの販売数量）	C＝A－B	496
外国産食糧用小麦の輸入量	D＝C	496

注：備蓄数量はこの表に含まない。

1－5　備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分（政府が1.8か月分、民間が0.5か月分）の備蓄を行っています。

平成22年度の備蓄目標数量は、引き続き、外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分（95万トン）とします。

このうち、現在政府が備蓄している1.8か月分（74万トン）については、平成22年10月からは民間の備蓄に移行することとしています。このため、平成22年度の政府の期末在庫量は０万トン、民間の期末在庫量は95万トンとなります（表４）。

なお、平成22年10月以降、民間が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分については、国が保管料を助成することとしています。

表４　平成22年度の備蓄目標数量

（単位：万トン）

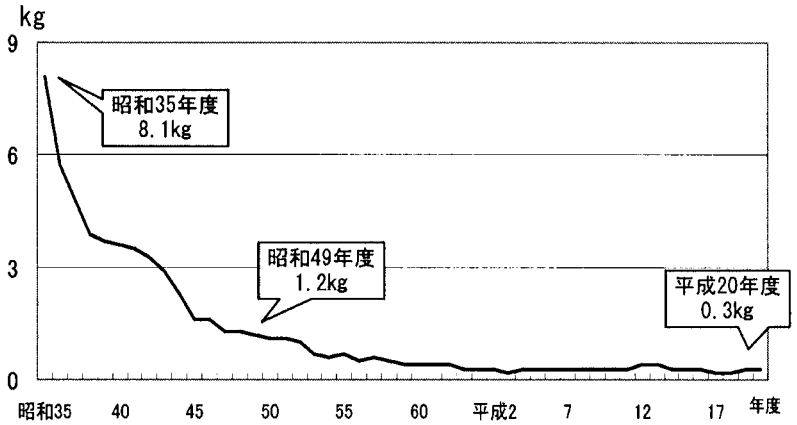
	政府備蓄数量	民間備蓄数量	合　　計
期首在庫量	74	21	95
期末在庫量	0	95	95

2－1　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

食糧用大麦及びはだか麦の１人当たりの年間消費量は、概ね0.3kgで横ばいで推移しています（図２）。

このため、平成22年度の総需要量は、過去５年間（平成17年度から平成21年度まで）の平均需要量である38万トンと見通します（表５）。

図２　食糧用大麦及びはだか麦の消費量の推移
（１人１年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」
注：平成20年度の数値は概算値である。

表５　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年比
平成16	(5)　42	116%
17	(6)　36	87%
18	(4)　53	145%
19	(5)　24	45%
20	(7)　38	160%
21見込み	(6)　37	99%
22見通し	(7)　38	102%

注：（　）書きは、生産者団体とビール会社との契約栽培により供給された国内産ビール大麦の数量であり、外数である。

2－2　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量

⑴　国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量（当年産の大麦及びはだか麦のうち、生産者から実需者に引き渡された数量）

平成22年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量は、平成21年９月の民間流通連絡協議会において報告された平成22年産の作付予定面積に、10ａ当たり平均収量（二条大麦353kg、六条大麦310kg、はだか麦315kg）を乗じ、さらに、食糧用供給割合（二条大麦55.8%、六条大麦86.4%、はだか麦97.5%）を乗じて、11万トンと見通します（表６）。